

2018年7月11日
日興アセットマネジメント株式会社

「高金利先進国債券ファンド2(早期償還条項付)／愛称:オリーブ2」 分配金のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ご愛顧いただいております「高金利先進国債券ファンド2(早期償還条項付)／愛称:オリーブ2」は、2018年7月10日に決算を行ないました。

本資料では、当期の分配金についてご報告するとともに、マザーファンドの運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドのコメントをご紹介します。

当期の分配金と設定来の基準価額推移



<当期の分配金>

分配金 (税引前、1万口当たり)	0円
基準価額(1万口当たり) 2018年7月10日現在	9,364円

<基準価額の推移>



※ 基準価額は信託報酬(年率1.3392%(税抜1.24%))控除後の1万口当たりの値です。

今後の分配金額につきましても、引き続き、収益分配方針に基づいて決定してまいります。

今後も、当ファンドをご愛顧くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
- 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが「高金利先進国債券ファンド2(早期償還条項付)／愛称:オリーブ2」の運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。

■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

■ 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

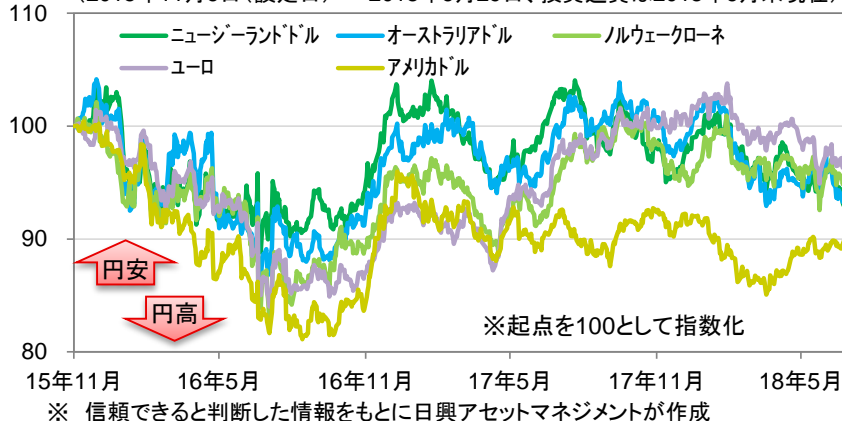
運用概況と投資国の見通しについて



- 今期(2018年1月11日～2018年7月10日)においては、年初来、米国の利上げペースが加速するとの懸念から米長期金利が大幅に上昇し、2月末にかけて債券価格は下落しました。また為替市場では、米国の金利上昇が米ドルの堅調を支えた一方、世界的な貿易摩擦の激化懸念や欧州の政治リスクなどからリスク回避の円高が進行する場面が多くみられ、投資通貨は軟調な推移となりました。
- 6月のFOMC(米連邦公開市場委員会)において、FRB(米連邦準備制度理事会)は今年2度目となる利上げを決定したほか、2018年の利上げ回数を見通しを、従来の計3回から4回へと引き上げました。こうした動きは引き続き債券価格の下押し圧力となるものの、債券利回りの上昇からインカム収入の拡大が期待されるほか、日米の金利差拡大や堅調な景気が米ドルの上昇を支えるとみています。
- ニュージーランドの政策金利は、2016年11月以降、過去最低水準の1.75%に据え置かれているものの、貿易摩擦の影響から今後の金融政策への不透明感が強まっており、足元で同国通貨への投資比率を引き下げました。ただし、底堅い経済成長を続ける同国通貨への長期的な強気の見通しは継続しています。
- オーストラリアドルは、鉄鋼やアルミニウムを巡る貿易摩擦の影響などから、軟調に推移しました。しかし、同国景気は引き続き底堅く、また商品価格が堅調に推移する中、オーストラリアドルはこれまでの下落によって割安な水準にあると考えており、足元で同通貨の投資比率を高めています。
- ノルウェークロネに対するポジティブな見通しに変化はありません。また、同通貨は原油価格との相関が高いとされていますが、最近の堅調な原油価格に対し、未だ出遅れがみられます。中央銀行は足元でよりタカ派的な発言をみせており、早ければ今夏にも利上げを行なう可能性があるかとみています。
- イタリアにおける政治的な混乱などを受け、足元でユーロへの投資比率を限定的なものとしています。ユーロ圏では、ドイツなどの高格付国と、イタリアやスペインなどの周縁国との成長格差が通貨の下落につながっているとみています。最近の軟調な経済指標は一時的なものであると考えますが、ECB(欧州中央銀行)による政策金利の引き上げは、早くとも2019年後半になるとみています。

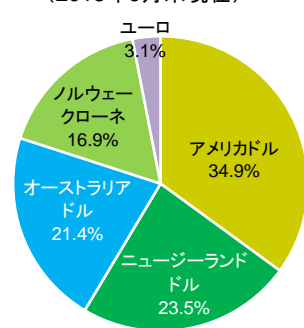
<投資通貨(対円レート)の推移>

(2015年11月6日(設定日)～2018年6月29日、投資通貨は2018年6月末現在)



<実質通貨別投資比率>

(2018年6月末現在)



※ 上記は当ファンドの対純資産総額の比率です。比率にはその他があるため100%とならないことがあります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

上記は、当ファンドの主要投資対象である「高金利先進国債券マザーファンド」の運用会社である日興アセットマネジメントヨーロッパリミテッドからのコメントをもとに作成しています。当コメントは、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが「高金利先進国債券ファンド2(早期償還条項付)／愛称:オリーブ2」の運用状況についてお伝えすることなどを目的とし、受益者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくために作成した資料です。
- 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。